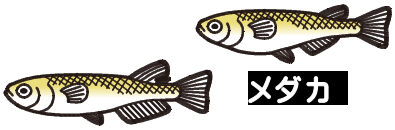
# 城北まちづくり通信

2023/8/10
５０号
城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

## 「袋川・狐川水質浄化対策検討会」から（報告）

今年度から、浄化対策を「狐川」と「袋川」を一体としてとらえることが合理的であるということで、「袋川・狐川水質浄化対策検討会」(令和5年8月7日)が、流域内の関係行政機関(国・県・市)や学識経験者、地元自治会(美保・明徳・富桑・醇風・城北・浜坂・久松)・団体(狐川を美しくする会・鳥取環境生態研究会・袋川をはぐくむ会)が参加して開催されました。
以下、報告します。


メダカ

【袋川と狐川の課題】
「袋川」は、千代川の支流で、鳥取市街地を流れる“袋川(かつての旧袋川)”と、鳥取市大杙から分かれて千代橋付近で千代川に合流する“新袋川”の2つの河道があります。　袋川は、江戸時代に池田光政によって掘削されたもので、鳥取城の防御や城下町の整備に役立ちました。新袋川は、昭和9年に鳥取市大杙から千代橋付近までに掘削されたもので、鳥取市街地を洪水から守る役割を果たしました。
しかし、流路を変更したことにより、袋川下流の自己流量が少なくなったことと、都市化によって生活排水や温泉排水の流入が多くなったことで、水環境は著しく悪化しました。また、下流域は潮の満ち引きによって千代川河口から海水が逆流して、水底の土砂やヘドロ等が堆積しやすい状況となり、悪臭や浮遊物の除去が課題となりました。

一方、狐川は、鳥取駅南で山白川から分岐し、城北地区内を貫く全長5.3kmの一級河川です。もともとは農業用排水路でしたが、田園地帯の都市化が進行し、雨水の行く場を失ったことで水害(内水氾濫)が発生しました。その後、昭和44年から改修が進められ、平成元年に現在の狐川の姿に生まれ変わり、「狐川排水機場」と「浜坂遊水池」を一体利用することで、50年に一度の大雨でも、住宅の床上浸水を防ぐことができるようになりました。(因みに、本年7月の豪雨時には「狐川排水機場」と「浜坂遊水池」を一体利用し内水氾濫を防ぎました。)　勾配が緩いことに起因して、流れが悪く閉鎖的で、袋川からの逆流や生活雑排水の流入などで悪臭や植物プランクトンの増殖などの水質悪化が課題となっています。

【報告内容】
◎狐川の流量を増やす改修工事が完了し、現在、灌漑期増水0.2m³/sの運用を開始しています。モニタリング(水位や水質、雨量などを観測)を実施すると共に、水量の維持や浸水被害防止のための巡回監視をしています。
◎千代川と袋川の合流部(浜坂)から順に、狐川合流部までの環境悪化の原因である堆積した水底の土砂やヘドロ等を取り除くための浚渫工事を開始します。
＊工期:令和5年度11月から令和9年度末
【環境改善の科学的根拠、工事に伴う騒音等の周辺住民への配慮、生態系への配慮等を、図解資料を交えて詳しく説明していただきました。】

袋川・狐川の水質浄化の実施にあたっては、今後も、国・県・市と地域住民が連携しながら、「袋川・狐川水質浄化対策検討会」で検討し、協働で水質浄化に向けた取り組みを進めます。　城北地区住民の皆さんのご意見は、城北地区公民館(城北まちづくり協議会　事務局☎0857-26-3997)までお寄せください。　城北まちづくり協議会　会長　鈴木伝男